

## 令和5年度 特別支援学校寄贈物品 使用状況報告書【1年目】

P T A名	静岡県立浜松特別支援学校P T A（磐田分校）					
学 校	対 象	<input type="checkbox"/> 視覚障害	<input type="checkbox"/> 聴覚障害	<input checked="" type="checkbox"/> 知的障害	<input type="checkbox"/> 肢体不自由	<input type="checkbox"/> 病弱
	設 置 部	<input type="checkbox"/> 幼稚部	<input checked="" type="checkbox"/> 小学部	<input checked="" type="checkbox"/> 中学部	<input type="checkbox"/> 高等部	
	全校児童・生徒数	27人				

### 1. 使用状況

寄贈物品名	エアポリンフラット
使用学年及び人数	小学部 1～6年 15人
使用頻度	週 2回
使用状況	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎週月曜日の5時間目にある学級活動で使用</li> <li>・ 毎週金曜日の5時間目にあるわくわくタイム（自立活動）で使用</li> </ul>
物品の使用による変化や効果	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ わくわくタイム(自立活動)では、ふわふわする感覚を楽しみながらバランス感覚や自分の体を自分で操作する調整力を養うことができる。</li> <li>・ 最初は教師が手をつないでジャンプしていた児童が一人でジャンプしたり、マット上を転がりながら自分で立ち上がったりすることができるようになった。</li> <li>・ 学級活動でエアポリンを使用することを楽しみにしている児童が多く、準備を進んで手伝ったり、片付けをしったりする様子が見られる。</li> </ul>
今後の活用の見通しや課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 毎週、自立活動の時間を楽しみにしている児童が多く、心の安定につながっている。継続して使用することで、筋力や調整力を高めていきたい。また、エアポリンを使用する際、遊びのルールや順番など、児童が決めたルールを設定し、社会生活に必要なことを学ぶ機会にもしていきたい。</li> </ul>
その他希望や所感など	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 分校が希望したものを寄贈していただき、ありがとうございます。今まで、既存の教材や空間を工夫し、学習を設定していましたが、このような大型遊具を活用することができ、児童も楽しく活動しています。</li> </ul>

## 2. 活用の様子

### わくわくタイム（自立活動） 体の調整力や筋力を付けるグループの様子

好きなエアポリンの上でふわふわした感じを楽しむだけでなく、教師が一人ずつ声を掛け、教師の支援を受けながらジャンプしたり、立った姿勢で揺れを感じたりすることで自分でバランスを取りながら楽しむことができるようになってきている。



### わくわくタイム（自立活動） 心の安定を図り、ルールを学ぶグループ

グループの仲間でエアポリンを2階まで運んだり、セッティングを手伝ったりすることができるようになってきている。  
活動の始めに、遊びのルールを確認することでけんかや怪我をすることなく、汗びっしょりになるまで楽しく体を動かすことができる。

